

生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター北浜
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和 7 年 10 月 24 日（金） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	浜松市ふれあい交流センター浜北 2階大会議室
3 参加者	15名（委員8名、事務局3名、関係機関4名）
4 協議の内容	

1. 開会 会長あいさつ

2. 議事

『北浜地区の現状と課題、対応策について』

【前回の振り返り】

前回会議では、サロン活動の手引きが完成したため、共有している。居場所づくりは一旦区切りとして、次の取り組みを検討するにあたり、2つのグループに分かれて最近の地域の相談や気になることを付箋に書き出して共有した。

事務局：今回も2つのグループに分かれ、前回出た意見の中からテーマを選定し、課題と対応策を検討する。話し合った内容を模造紙に記入し、最後にそれぞれのグループから発表する。「考えられる課題」→「必要なこと・できること・あったいいな」ということを各グループでご検討いただき、小さな気づきでも良いので共有していきたい。

前回出た意見からジャンル分けしたテーマ：認知症・居場所・担い手・やりがい・移動支援・つながりの希薄化・外国人・防災・その他

【10：15 ～ 11：10 グループワーク実施】

グループ① 担い手×居場所×つながりの希薄化

- ・担い手の課題：家事支援の担い手は雇用年数が伸び、若い人が来てくれない。民生委員やPTAも担い手がないという話も聞く。
- ・居場所：サロンとして活動していないが、サロンの機能を果たしているようなところがあるのでないか。→子どもを巻き込んでいけるといい。お祭りを通した地域福祉、ラジオ体操が盛んなことが強みのところもある。

グループ② 一人暮らしの増加

- ・配偶者が亡くなり一人暮らしになることから「シングル通り」と呼ばれている地域がある。
- ・居場所を求めてアピタやなゆた浜北のヘルストロン、図書館等で過ごしている人もい

る。そういう人たちが人と関わり合いながら過ごすことができる居場所があるとい
い。その居場所での交流が認知症予防につながるが良い。

- ・一般的な地域のサロンでは月一回くらいが限界と思われる。求められる居場所とは、ふらっと行けて、行けば誰かがいる場所。また、行く手段がないことも課題。
- ・サロンや地域活動につながっていない市営団地やアパートに一人暮らしの方には、必要な介護情報も届いていない課題もあると思われる。防災については自治会の要支援者リストが届いていると思う。自治会と福祉職がつながる仕組みがあると良い。
- ・テーマとしては「孤独孤立高齢者」について考えてみたい。
- ・地域とつながっていない方たちがいるが、こちらが気にかけても関わりたくない方もいる。
- ・生活に限界が来て、倒れて初めて病院や介護につながる場合もあるのではないか。
- ・テレビからの情報では、自分の住む地域の情報が入ってこないのではないか。
- ・公民館に「老人憩の家」の看板を掲げていても活用できていない現状もある。
- ・地域の見守りがあったら良い。地域によっては民生委員の依頼があつて、近所の人による見守りが行われているところもある。回覧板を回すときの声掛けも大切にしたい。いつでも誰でも寄れるところがあると良い。
- ・居場所となる箱だけがあればいいのではなく、迎え入れる温かい人や、また来ようと思える雰囲気があると良い。ボランティアポイントなどで貯めたポイントに応じて将来自分が支援を受けられるような仕組みなどがあると良い。

4. その他

- ・浜松市より案内

11/18 13:30～クリエート浜松 浜松市主催

令和7年度介護予防講演会「気が付いていますか？喉の老化 むせの撃退法」

11/29 浜北医師会 市民向けACP講座 浜北プラザホテル 詳細は浜北医師会HPへ

5 今後の見通し・ 必要な対応

- ・次回開催日程 R8.2/20（金）10:00～11:30
- ・今回のグループワークで出た意見をさらに深め、次の取り組みを検討する。